

『社会福祉基礎』の校外授業を行いました

～リハビリセンター白鳥（池田町）を見学～



5月24日（火）6限、昨年度開講した3年生の選択科目『社会福祉基礎』の校外授業を社会福祉法人 新生会 リハビリセンター白鳥（〒503 - 2413 岐阜県揖斐郡池田町白鳥 386 番地）のご協力のもと、同施設で行い、3年2組の科目選択者16名が出席しました。その様子を紹介します。

リハビリセンター白鳥では、加齢等による障がいによって、毎日繰り返していた日常生活や生活習慣を失った高齢者の方が、自分らしい日常生活を送ることができるよう支援しています。そのため、介護、看護、作業療法、言語聴覚等の各専門スタッフが、利用者さんのできることを増やし、生活の幅を広げていくお手伝いをされています。



リハビリセンター白鳥は池田高校から徒歩で15分の距離にあります。生徒は学校から自転車でやってきました。



【『社会福祉基礎』の授業の始まり】
スタッフの看護師 木下さんから話を聞きます

授業は、「尊厳と福祉社会の創造」をテーマとして、高齢福祉に関する支援システムやバリアフリーの現状を、生徒が自ら地域に足を運んで、体験的に学習する目的で実施しました。生徒は2グループに分かれて施設のご案内を受けるとともに機能訓練を体験しました。

施設見学では、看護師・介護支援専門員 木下 律子さんに案内していただきました。



【施設見学】

まず、1階のグループホームの洗面室とトイレを見学します。一つ一つのトイレが、障がいの種類に応じて利用者さんが使いやすいように設計されています。



【施設見学】

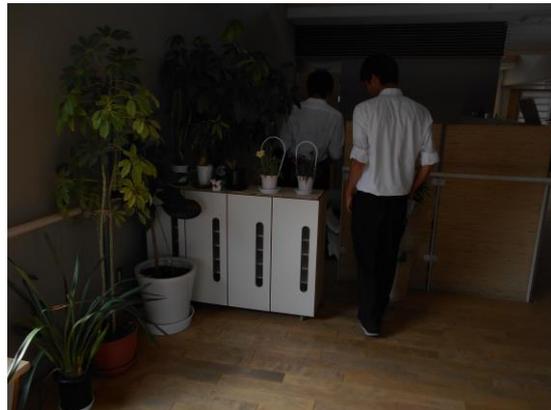
2階の特養老人ホームでは、建具をなくして広い空間を生み出しています。一人一人のプライバシーが大切にされています。

施設の1階は、**グループホーム**（認知症の症状を持ち、病気や障がいなどで生活に困難を抱えた高齢者が、専門スタッフの援助を受けながら共同生活する介護福祉施設）と**デイサービス**（日帰りで施設に通い、食事や入浴など日常生活上の介護や機能訓練等を受けることのできるサービス）の施設があります。



【施設見学】

利用者の方々が制作されたたくさんの作品が棚に飾られています。いずれも注意力と細かい手作業が必要な作品ばかりで、とても美しいものです。



【施設見学】

1階へ降りる階段の手前に飾り棚が置いてあります。これが目隠しとなって、利用者さんから下りの階段が見えないので、利用者さんが誤って転ぶなどの事故を未然に防ぐ工夫がなされています。

2階は、**サテライト型特別養護老人ホーム**（利用者が住み慣れた地域で生活でき、地域との密接な関わりができる場所を提供した地域密着型介護老人福祉施設）があります。ここは建具をなくし、広い空間があります。4人部屋ですが、個室に分かれていてプライバシーが保たれています。利用者の方に寝たきりの方はいませんが、様々な福祉用具を用いて機能訓練をしています。トイレには起立リフト、吊り上げタイプのリフトがあり、利用者を補助し、介護者の腰痛を防いでいます。

機能訓練体験では、作業療法士 三輪 直美さんからご指導いただきました。



【機能訓練体験】

利き手ではない方の手でクッキーが入った瓶の蓋を開けようとしていますが、なかなか開けられません。



【機能訓練体験】

滑り止めマットや自助具を使うことで、利き手ではない方の手でも蓋を回すことができます。



【機能訓練体験】

クッキーをつかむ箸やスプーンにも工夫があります。これらの自助具や福祉用具は、一人一人の利用者さんに合わせて作業療法士さんが製作します。



【機能訓練体験】

生活に必要な脚力を維持、強化するため、リハビリ機器を使って運動します。

1階のマシナールームには、筋力をつけるための様々なリハビリやトレーニングの機器があります。



授業後の振り返り

➤ 生徒の感想

「私は一度ボランティア活動で行ったことがあったが、どんな施設なのかは知らなかった。今回見学させていただいて知ることができた。『岐阜県方式個室型多床室』はよく考えられた空間だと思った。プライバシーを保ちつつ、人との関わりは閉ざしすぎないようにしてあるので、利用者さんが暮らしやすいだろうと思った。それと、利用者さんが畑をやっていたこと、晩酌をされる方はお酒を持って来ていいことが驚きだった。息が詰まるような施設がある中で、ここでは伸び伸びと生活できているだろうと思う。そして、何よりも笑顔の方が多く見られたのが印象に残った。この見学で色々なことを思ったし、学べてよかった。」

「今回、私は初めてリハビリセンターに行きました。リハビリセンター白鳥では、デイサービス、ショートステイ、グループホーム、サテライト型特養、リハビリなど、利用者の人に合わせたサービスを利用できる場所だと知りました。実際に作業療法士の人や看護師さんの話を聞き、体験をしました。道具を使ってビンの蓋を開けたり、箸を使ってクッキーをつかんだりする体験をしました。道具を使うことで、道具を使わない時と比べて素早く蓋を開けたり、クッキーがつかみやすくなったりしました。グループホームの部屋では、利用者の方の個性がとても生かされていて、一人一人置いてある物が違いました。また、トイレにも工夫があり、例えば、右側にマヒがある人がトイレのドアを開きやすいように左側の方にドアがくるように考えられてトイレが設置してありました。リハビリセンター白鳥は様々な人たちに合わせて利用できる場所であり、働い

ている人たちもとても親切な人たちばかりなので、利用者の人も安心して施設を利用できると思
いました。」

「今回初めて見学させていただいて、他の所とはちがう工夫がたくさんあったことにびっくりし
ました。一人一人に部屋があることやお風呂も個人で入れるところがあること、トイレも3種類
くらいあって、すごくお年寄りに優しい施設だと思いました。蓋を開ける時に握力の弱い方が開
けやすくする自助具は誰にも簡単に作れるものでした。利き手とはちがう方で食べる時に使
う箸の自助具はとても使いやすくて驚きでした。運動のできない方が使うトレーニング機械があ
り、あまり動けない方にはうれしいものだと思いました。ありがとうございました。」

「昨年の冬にもリハビリセンター白鳥に見学させてもらい、一番驚いたことは、『利用者さんを縛
らない自由な空間』でした。普通、エレベーターなどにはパスワードがかかっていたりしている
のに、白鳥にはそれはなく、冬に見学させてもらった時は、利用者さんが施設の外に出て行っ
たりしても引き戻さず、一緒にどこまででも歩いて行き、利用者さんが疲れたかなと思ったタイミ
ングと一緒に施設へ帰ると聞きました。私はそのことに驚きました。本当に白鳥は利用者さんが
暮らしやすい生活を重視していて、グループホームやショートステイの個室はすごく工夫されて
いるなあと感じました。4人部屋使用なのにそれを区切って個室にしているということは、一人
部屋なのに値段が安いということだし、プライベートな空間を持っていて、利用者さんにとって
ありがたく、暮らしやすいと思いました。皆で作品を作ったり、それをカフェで使用したりして
いたのにも感動しました。本当に暮らしやすく、今まで通りの生活リズムを変えずに利用できる
のは一番ではないかと思いました。」

～本校では、ESDを推進し、一人一人の夢を実現するための学びを進めています～